



黄土高原で植林をする現地の人たち

シルクロード緑化プロジェクト

中国内陸部の黄土高原で、 沙棘(サージ)の植林活動を支援しています。

13億人という世界最大の人口を抱える中国の経済成長が、ここ数年、国際的に注目を集めています。一方で、内陸部と沿岸部の経済格差や、急速な経済成長に伴う環境悪化などの問題も深刻化しています。中国では経済的に立ち遅れている内陸部の開発と環境保全の両立を目指して、「西部大開発」政策や「山川秀美」政策が進められていますが、もともと乾燥地帯の広がるこの地域(シルクロード一帯)では、地球規模での気候変動や過度の取水などによる地下水の水位低下などで砂漠化が進行し、農作物の不作を招くなど、食糧不足や貧困などの問題にも直面しています。シルクロード上に位置する黄土高原約2,000kmでの植林活動を支援しています。

2003年度の活動と2004年度の計画

私たちはパートナーのNPO法人2050とともに、黄土高原の砂漠化防止と、周辺住民の生活の安定に向けて何ができるかを、地元の方々や地域人民政府の方々と討論会や勉強会を開くなどして何度も検討し、タクラマカン砂漠を発祥の地とする「沙棘(サージ)」の植林活動を進めるところにこぎつきました。沙棘は保水力が強く、砂漠化の進行を防止する効果があります。また、その実は市場で売ることができ、現金収入が期待できます。2003年度は黄土高原にある陝西省の2ヶ所で、現地の方々や小学生約50名とともに、合計約28haの乾燥地に約15,700本の沙棘を植えました。2004年度も引き続き、陝西省で植林を行います。



植林に参加した農家の人たちや、小学生、NPOスタッフ



沙棘(サージ)を植える
現地の子もたちとNPOスタッフ